

# 令和8年度プロジェクト研究公募テーマ

## プロジェクト研究テーマA

### 「イノベーションロードマップ第Ⅱ期・ネクストステージに向けて2」

#### 趣旨：

歯科医学会が2020年に発出した歯科イノベーションロードマップ2040は、発出から6年が経過した。これは、日本歯科医学会に所属する多くの学会の貴重なデータから作り上げられた目標である。2040年でのアウトカムを見据えた目標に向かうマイルストーンを経時的に示している。そしてそれは、オープンイノベーションであるので、既存の学会のテリトリーに拘らない、学会を横断した共同研究があるべきと考えている。

そこで、今年度も昨年同様、このイノベーションロードマップ第Ⅱ期（2026～2032）に向けて、このマイルストーンの見直しや各学会の垣根を超えた次のステージに相応しい研究を求めるものである。

なお、研究テーマの趣旨を踏まえ、研究内容がイノベーションロードマップに準じていることを条件とする。

## プロジェクト研究テーマB

### 「BANI を乗り越える力！～歯科MCPの構築、AIバブルからAXへ～」

#### 趣旨：

AIやDXの加速度的進化が1年単位から1日単位起きている。すでに、その用語も変化している。DXはすでに定着しているが、生成AIの爆速普及により、デジタル化の中でも特にAI化の優先順位が上がり、企業の競争力を左右する時代となっている。DXの一步先を進めるうえでAIを位置づける概念として新しい言葉、「AX」（AIを前提としたDX）が使われ始めた。

一方、生成AIと事業体内外のシステムとの連携を標準化するプロトコルが、既に開発され、オープンソースとして大手AI企業が続々と採用し始め、急速に普及が進んでいる。DX推進には、これらの共通のルールが必要であり、これの有無でその業界の発展度合いが決まると言っても過言ではない。

医療界においても情報の在り方、持ち方、共有方法、伝達などにおいて、一定の方向性を示す必要である。一般業界では、OSPO（企業や組織でオープンソースソフトウェア（OSS：ソースコードである設計書を公開することで、誰でも利用・コピー・再配布できるソフトウェア）の安全かつ効果的な活用をマネジメントする専門組織）が注目されているが、歯科界のこれを担うのは、日本歯科医師会や日本歯科医学会であるべきである。

そこで、プロジェクト研究Bは、「BANI を乗り越える力！～歯科MCPの構築、AIバブルからAXへ～」と題し、医療機関の連携、多職種を含む医療従事者の連携、患者との連携などの仕組みは無論の事、これを具現化できるシステムの研究を求めるものである。

## プロジェクト研究テーマC

### 「いい加減にしよう、これで最後にします研究」

趣旨：

これまで、このプロジェクト研究には、長年、多くの応募が提出された。「緊喫の課題」と謳いながら、長年提出されてきた類似の課題が散見される。緊喫の課題であれば、長年、ペンディングされていることになる。内容的には、検査法、診断プロセス、評価に関わることが多いが、本来であれば、これらは、医療の効率化、安全・安心の面からも非常に重要な事案である。

そこで、プロジェクト研究Cは、「いい加減にしよう、これで最後にします研究」と題し、テーマ、分野を問わない、長年、継続的に提出されていたペンディングとなっている緊喫の課題を解決、終息させる、終息できる研究を求めるものである。